

学位論文の要約

看護師対象のオンライン教材を活用した相互コーチングによる自己調整学習の獲得に関する研究

岩手県立大学大学院看護学研究科博士後期課程

看護管理学・看護相談技術学分野

2162017001 遠藤良仁

【目的】本研究は、看護師の自己調整学習獲得の様相を明らかにし、看護師向けの自己調整学習の効果的な獲得を支援する教育プログラムとオンライン教材の開発を目的とした。

【方法】研究1として、2018年10月～12月にかけて看護師育成に関わっている看護師から看護師長12名を対象に4グループに分かれたフォーカスグループインタビューを実施し、語られた内容から看護師の自己調整学習の獲得状態や影響要因、獲得支援に対する感情や認識を抽出し質的統合法（KJ法）を用いて分析した。そして、見出された論理構造から自己調整学習の向上を促進し、教育環境の距離的、時間的制約への対応が期待されるオンライン教材を用いた自己調整学習獲得支援教育プログラム（以下、教育プログラム）を開発した。

この教育プログラムは3名1グループとなり、オンライン上で交流しながら進める。まず各自オンライン教材にアクセスし、自己調整学習理論とコーチング理論の基礎知識を小テストで全問正解するまで学び、自身が今回取り組む目標を表明するところまでを個人で行う。その後、それぞれの参加者に別の参加者がコーチ、もう一名がコーチとのやりとりの観察者の役割を担い、他の参加者に対して役割が重複しないように調整することで、3名が同時に3つの役割（目標到達を目指すクライアント役、コーチ役、観察者役）を担う体制を作る。そして、オンライン教材上に設置した掲示板のクライアント毎のスレッドに①クライアントによる自己内省と次週の計画、②コーチによるコメント、③クライアントからのコーチのコメントを受けた反応、④観察者からの観察結果、⑤クライアントからの観察結果を読んだ反応、の順番で4週間継続して毎週投稿し、最終的に各自が自己目標の達成を目指す。

研究2として2020年7月～12月にかけて岩手県内の2施設にて同一病院の看護師長3名ずつにこの教育プログラムを試用してもらい、自己目標の達成度ならびに自己調整学習獲得の自己評価、および、感想と教育プログラムの有用性を評価してもらった。

倫理的配慮として、研究1では岩手県立大学大学院看護学研究科研究倫理審査会から承認、研

究2では同大学研究倫理審査委員会から非該当判定を得た上で、各協力病院の看護管理責任者から承諾を得た後、研究協力者へ文書で同意を得て実施した。

【結果】研究1の看護師へのフォーカスグループインタビューからは、看護師の自己調整は初歩的な自己調整者の側面から、他スタッフと共に起こる自己調整学習の向上と自己調整学習の獲得が困難な職場環境による伸び悩みへ向かい、基礎教育への要望とつながる論理構造が明らかになった。そして、看護師の自己調整学習への価値付けの低さ、有るべき指導者像の探究困難状態、適切なモデリング不足が問題として抽出された。

これらの問題を受け、教育プログラムでは、参加者が自己調整学習理論と毎週の振り返り等で活用できる「学習のサイクル」について初めに学べること、3名が相互にコーチングやその観察結果を把握できモデリングが機能するように他の参加者の投稿内容を閲覧できること、研究者もファシリテータとして適宜コーチングを意識して投稿するようプログラムを設計した。

研究2では、看護師長6名中4名が、教育プログラム試行後に自身の目標達成度が10段階中5段階以上向上したと回答し、各自己調整学習獲得の自己評価もほぼ高水準に評価していた。さらに事後インタビューにおいてグループ1の参加者からは、為すべきことへ集中する中で文字化して積み重ねる大切さの理解と、自分事としてのモデリングなどから自己調整学習向上の実感を得ていたこと、さらに困難なコーチング体験が学びの必要性の自覚と学習への動機づけとなり、それが他者への貢献感とモチベーションの向上をもたらしていたことが明らかになった。また、グループ2の参加者からは、クライアントが自己効力感を持てるよう、文章表現を工夫して承認するコーチング体験や、フィードバックに困惑する観察者体験などを経て、自己調整学習獲得の自覚をもたらしていたことが示唆された。

【考察】研究1より看護師の自己調整学習は、他スタッフとの社会的かつ相互作用的なダイナミクス内の共同調整の要素が強い特性が示唆された。さらに研究2では、参加者は、オンラインにより時間的、地理的限界性を抑えて、文字化して思考を整理して蓄積する利点の自覚や、観察によるモデリング、コーチングによる承認などを通して他の参加者との相互作用を自覚するとともに、コーチング時の対象に対する貢献感の不十分さや観察時のフィードバックへの困惑を自身の方略の在り方に帰属させ、自身の自己調整方略の選択に活かすことが出来ていた。

以上より、看護師の自己調整学習は他者との社会的かつ相互作用的なダイナミクス内の共同調整の影響を受け、本教育プログラムは看護師の自己調整学習の獲得を効果的に支援できる可能性があることが示唆された。